

平成30年 6 月 22 日

幕別町議会議長 芳滝 仁 様

総務文教常任委員会委員長 小川 純文

総務文教常任委員会報告書

平成30年 5 月 10 日本委員会に付託された事件を審査した結果、次のとおり決定したので、会議規則第94条第 1 項の規定により報告します。

記

1 委員会開催日

平成30年 5 月 10 日、24 日、6 月 8 日、18 日、19 日（5 日間）

2 審査事件

陳情第 2 号 株式会社忠類振興公社経営方針に関する十分な説明を求める陳情書

3 陳情の主な趣旨

忠類ナウマン温泉ホテルアルコ 2 3 6 を運営する株式会社忠類振興公社は、平成23年から赤字経営が続き、負債額が資産を上回る債務超過に陥っている。

平成29年度から、ホテル業に精通した会社と連携を図った上で、指定管理料を増額し、33年度までの 5 年間の指定管理の協定を締結したところである。

町は、過疎債を投資して10か年計画でアルコ 2 3 6 の改修整備をしていくようであるが、町民の生の声を一度も聴かずに、執行方針を固めることに町民は大きな疑念を抱いている。

町議会においては、株式会社忠類振興公社並びにアルコ 2 3 6 の今後の経営方針に関し、町民に対し十分な説明を行うよう町に求め、町民の疑念を晴らしていただきますよう改めて陳情する。

4 審査の経過

審査にあたっては、アルコ 2 3 6 及び道の駅・忠類の現地視察を行うとともに、これまでの議会での審議状況、報告状況の確認をした。

審査の過程では、町民の代表である議員として、これまで理事者から十分に説明を受け、それを議会報告会でも説明していることや、陳情書の内容に正確ではない点があること、株式会社忠類振興公社と業務委託先の株式会社アンビックスは民間会社であり、その経営方針に議会として口出しできるものではないことから、採択には反対であるとの意見があった。

また、一方、この陳情書に書かれている赤字について一切の説明がなかったということや議会は理事者との緊張感が欠けている、町民の生の声を聴かずに一方的に執行方針を決めているとの指摘は事実誤認や誤解であり、その内容について受け入れ難いものが多々あるが、この陳情の趣旨、願意は、議会として町に十分説明を求め、町民の疑念を晴らしてほしいという思いであり、議会としてそれを受け止め、応えていかなければならないのではないか、などの意見が出された。

最終的に、起立採決で結論をみた。

5 審査の結果

「趣旨採択」すべきものと決した。